

水道事業

経営戦略に基づく令和5年度の目標及び取組みについて

令和5年度予算の概要

1. 収益的収支

(単位：千円 税抜き)

項目	令和4年度(A)	令和5年度(B)	比較(B-A)	増減率
収益	4,587,973千円	4,589,709千円	1,736千円	100.0%
費用	4,530,686千円	4,544,722千円	14,036千円	100.3%
純利益	57,287千円	44,987千円	△12,300千円	78.5%

2. 資本的収支

(単位：千円 税込み)

項目	令和4年度(A)	令和5年度(B)	比較(B-A)	増減率
収入	1,395,845千円	1,341,651千円	△54,194千円	96.1%
支出	3,185,641千円	3,266,946千円	81,305千円	102.6%
収支差引	△1,789,796千円	△1,925,295千円	△135,499千円	107.6%

計画の推進【経営指標】

指標名	算定方法	望ましい方向	見込 R4	目標値 R5	経営戦略			
					前期		中期	後期
					R4	R5	R8	R12
有収率	$\frac{\text{有収水量}}{\text{配水量}}$	↑	90.1%	90.1%	⇒	89.2%	89.5%	90.0%
経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}}$	↑	105.0%	109.5%	107.4%	104.6%	102.1%	100.0%
企業債残高対給水収益比率	$\frac{\text{企業債残高}}{\text{給水収益}}$	↓	194.2%	194.1%	274.8%	288.0%	316.1%	353.5%
企業債残高(億円)	年度末時点残高	↓	82.7億円	82.2億円	113.2億円	117.6億円	126.1億円	137.3億円

表 経営指標

令和5年度の主な取組事業（水道事業）

【安全】水源環境の保全

取組み：水源の涵養、水源の保全及び啓発

水源である筑後川の環境保全

久留米市の水道水の大部分は、筑後川から太郎原取水場で原水を取水し、放光寺浄水場で浄水しています。この取水場から浄水場までの直上にある大谷川について、地域住民と協働で清掃を年2回実施します。

また、筑後川の水源涵養（かんよう）の取り組みの一環として、上流域の日田市と連携を図り、市民参加型の植林活動など実施します。



※水源涵養とは森林が水資源を蓄え、育み、守っている働きのことです。

【安全】水安全計画による安全な水運用

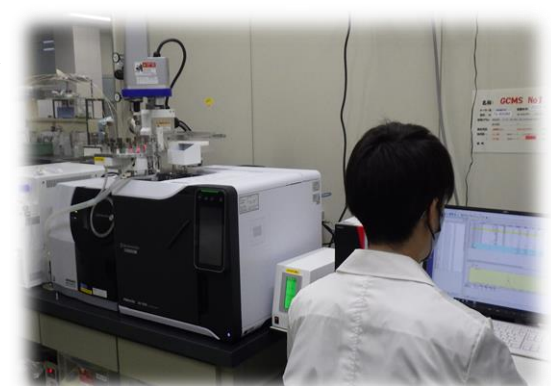
取組み：水質管理と水運用の充実

安全でおいしい水を提供 GLP認定手数料：594千円

水道GLPは日本水道協会が水質検査の信頼性を担保する目的で、ISOを参考に策定した水質検査の優良試験場規範です。

久留米市では、平成19年2月に認定取得して以降、これまで継続して認定を受けています。

令和5年度は、4年毎更新の水道GLP認定の審査を受検します。



【安全】給水装置の安全性強化

取組み：鉛製給水管の更新

鉛製給水管の更新

33,000千円

鉛製給水管はサビが発生しにくく加工が容易であるため、昭和63年度まで給水管及びメーター周辺部に使用されてきました。しかし国は平成4年以降、鉛濃度に関する水質基準を順次引き上げ、出来るだけ早期にゼロにする施策目標を掲げました。

久留米市においても、令和12年度を完了目標に計画的に更新を進めています。

- ・令和5年度更新：1,200箇所



【強靱】老朽化対策の推進

取組み：構造物・設備の計画的な更新

施設の長期的・安定的使用のため、アセットマネジメントに基づき計画的な更新を実施しています。

主な工事等

- | | |
|--------------------|----------|
| ・ 太郎原取水場 取水ポンプ整備 | 22,416千円 |
| ・ 放光寺浄水場 排水加圧脱水機整備 | 40,663千円 |
| ・ 放光寺浄水場 水質モニター整備 | 24,769千円 |
| ・ 放光寺浄水場 2系ろ過池弁類整備 | 21,230千円 |
| ・ 西部配水場 流量計、積算計更新 | 16,984千円 |

【強靱】防災・減災対策の推進

取組み：災害に強い管路への更新

南部配水本管耐震化

300,000千円

南部配水本管の経過年数は、60年以上に達しており、耐震性能が不足している状況であるため、更新に取り組んでいます。

平成25年度までに南部配水本管の一部(4.5km/6.5km、69.2%)の耐震化が完了しており、今後は耐震化が完了していない2.0kmの耐震化を実施します。

- ・令和5年度工事延長：650m
- ・令和5年度基幹管路耐震適合率：52.3%
(令和5年度南部配水本管整備進捗率：89.2%)



工事の様子

ビニル製配水管の更新

313,000千円

ビニル製配水管は、施工性や経済性に優れていたことから、平成11年度まで長年に渡り布設してきました。

しかし老朽化に伴い、破損に伴う漏水が増えており、年間の漏水件数の約7割を占めています。

そのため被害が甚大になりやすいφ150～φ75mmを優先的に、耐震性能を有するダクティル铸铁管へ更新します。

- ・令和5年度
ビニル製配水管更新工事：2,639m
- ・令和5年度末更新率見込：22.0%



ビニル製配水管の漏水状況

【強靱】危機管理の強化・充実

取組み：管路のループ化の検討

ループ化工事（国道3号バイパス）

48,600千円

小森野・宮ノ陣地区の給水圧力の安定及び災害時等における断水に対応するため、国の道路築造工事の進捗にあわせて、国道3号バイパスの配水本管ループ化を実施します。

- ・令和5年度工事延長：270m
- ・令和5年度整備進捗率：29.4%



【持続】水道事業の基盤強化及び広域化

取組み：経営効率化の推進

栗林配水池跡地施設撤去設計業務

14,000千円

栗林配水池は、水道事業創設以来、稼働を続けておりましたが、施設の老朽化のため、昭和60年に放光寺浄水場に統合し、現在は用途を廃止した施設です。

令和5年度は、栗林配水池跡地に残存する配水池解体撤去設計及び隣接法面整備設計等を業務委託により実施します。



栗林配水池の構造物残存状況（上部より）

【持続】水道事業の基盤強化及び広域化

取組み：漏水防止対策の推進

第17次漏水防止計画に基づく漏水調査 11,300千円

管種・口径・整備年度を参考にして調査対象を抽出した漏水防止計画に基づき、漏水調査を実施します。

この調査で地下漏水を早期発見し、修繕することで、道路陥没等の二次災害の防止や、水道水の安定供給と有収率の向上を図ります。

- ・令和5年度調査延長：291km
(直営調査：103km 委託調査：188km)



漏水調査の実施状況

取組み：経営効率化の推進

水道スマートメーターの導入検討

水道スマートメーター（自動検針）導入を検討します。水道スマートメーターは検針業務の自動化や省力化、誤検針リスクの解消、漏水の監視や居住者の見守りへの活用も期待されているものです。

令和4年度に上下水道料金等関連業務委託により市内約30箇所の導入準備を行い、令和5年度に試験導入を行います。

